

小売事業者のリサイクル状況

福祉施設のリサイクル状況



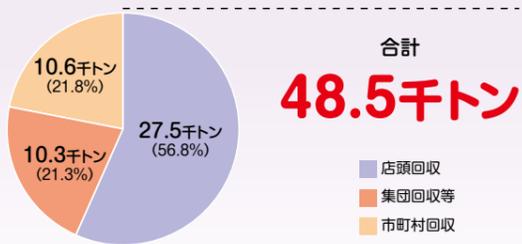
スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスで多くの紙パックが回収されています。

家庭からの紙パック回収の50%以上を占めているのがスーパーマーケットなどの店頭回収ボックスからの回収です。

店頭回収の調査は、生活協同組合やスーパーマーケット各社の公表データ、及び独自アンケート調査で行っています。2020年度におけるこれらの合計値は前年度より0.5千トン減少し、27.5千トンでした。家庭系に占める店頭回収の比率は、他の回収が減少したこともあり、前年度の55.0%から56.8%となりました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアやコンビニエンスストアについても調査を行っています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



取り組んでいます! リサイクル

日本生活協同組合連合会

(東京都渋谷区)

取組事例

生協における牛乳紙パックのリサイクル運動は、生協が飛躍的に発展した1980年代から、組合員による自発的な活動として広がりはじめました。地域を基盤とする地域生協では、店頭の回収ボックスや宅配配達帰りのトラック等を通じて回収し、トイレットペーパーなど新しい製品にリサイクルしています。2020年度に調査した紙パックの回収量は2,762トンでした(回答生協数44)。

ここで、全国の生協で2021年5月に定めた「生協の2030・環境サステナビリティ政策」の内容をご紹介します。本政策は持続可能な社会を実現するために全国の生協で推進する2030年までの政策であり、具体的なアクションプランである「10の行動指針」と将来のありたい姿をイメージしながら設定した「2030目標」から構成されています。

この行動指針において「生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します」と明記しており、牛乳パックをはじめ容器包装プラスチックや商品カタログなどの回収とリサイクル活動を強化していくことを宣言しています。

生協は、「すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球」を次世代へ手渡せるよう、これからもさまざまなステークホルダーと協働してまいります。



店頭の回収ボックス

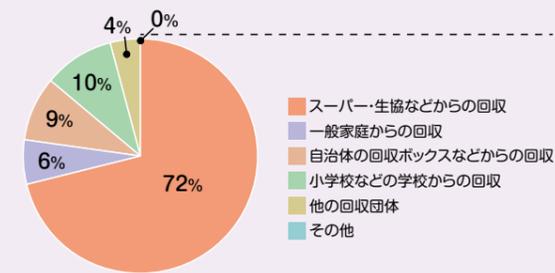


「生協の2030・環境サステナビリティ政策」のスローガン「すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ」のイメージイラスト

福祉施設の回収先は多岐にわたっています。

福祉施設の回収先は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが多いほか、小学校などの学校、自治体の回収ボックス等、一般家庭などと多岐にわたっています。また、多くの施設では、回収・受け入れた紙パックを主に回収業者に引き渡しています。

福祉施設の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

社会福祉法人 森の会 広域地域ケアセンター バオバブ

(東京都東久留米市)

取組事例

広域地域ケアセンターバオバブは昭和50年に地域で障害を持つ方が働ける場所を作りたいという願いから立ち上がりました。現在も「障害をこえて共に生き共に働く」を理念とし、地域で当たり前前に障害を持つ方が生活するための場として活動しています。

バオバブの取り組んでいる大きな仕事の一つに資源回収があります。東久留米市内の多くの家庭からご協力いただき、年間約500トンもの紙資源を回収させていただいています。また、バオバブでは地域とも連携を図り、公民館に紙パックの回収BOXを設置して紙パックの回収に取り組んでいます。リサイクルやリユースが大切にされる時代に自分たちがやっている資源回収が社会貢献に繋がっていることは利用者にとっても大きな働くモチベーションになっています。また、資源回収の仕事は地域の方と直接やり取りをするので、利用者の頑張りを評価していただきながら、障害理解を深めていけるという大きな利点も持ち合わせています。さらにバオバブで集めた紙パックは同法人の生活介護施設プラタナスで紙漉きの材料として使われており、喫茶店やラーメン店のコースターとして使用していただいております。これからも大きな社会とのつながりとして紙パックの回収に力を入れていきたいです。



回収の様子



コースター

市町村回収・集団回収の状況

捨てるなんてもったいない!



9割の自治体が紙パック回収に取り組んでいます。

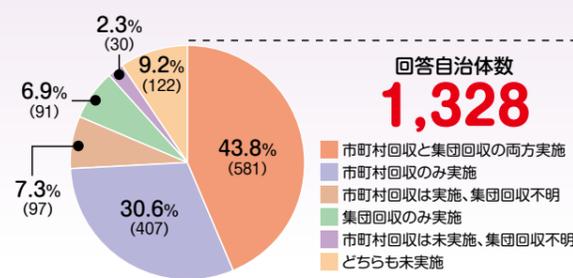
2020年度調査は全国1,741市区町村のうち、福島原発事故の影響が残る2町村を除いた1,739の自治体を対象に実施し、1,328市区町村から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の92.8%になります。

調査では、市区町村や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、住民団体による自主的な回収を「集団回収」としています。

市区町村数で見たとき、市町村回収実施率と、市区町村登録の集団回収実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が81.7%、集団回収が不明を除いて56.0%*でした。市町村回収と集団回収の少なくとも一方を実施しているのは88.6%で、全国の9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

*集団回収実施率=(市町村回収と集団回収を両方実施+集団回収のみ実施) / [回答自治体数-(市町村回収実施・集団回収不明の自治体数+市町村回収未実施・集団回収不明の自治体数)]=(581+91) / (1328-(97+30))=56.0%

市町村回収と集団回収の実施率



市町村回収や集団回収で16.2千トンの紙パックが回収されました。

市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2020年度は市町村回収が10.6千トン、集団回収が5.6千トンで、合計では16.2千トンでした。

1人あたりの回収量(原単位)をみると、市町村回収は、町村や一般市が大きく、政令指定都市や東京特別区では小さくなっています。また、集団回収は、東京特別区が小さくなっています。両方を合計した回収原単位は、一般市と町村で大きく、政令指定都市や東京特別区などの大都市で小さくなっています。ただし、政令指定都市や東京特別区は、都市や区によって様々です。

都市規模や地域によって異なる紙パック回収の実情を踏まえ、紙パック回収量を増やすための検討を進めることが課題といえるでしょう。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

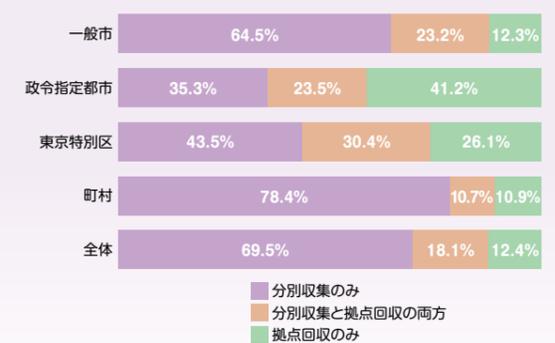
	全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収					
推計量(千トン)	10.6	7.8	0.9	0.7	1.3
都市類型別回収推計量比率	100%	73%	8%	6%	12%
一人あたりの回収量(g)	83	98	31	70	121
集団回収					
推計量(千トン)	5.6	3.8	1.2	0.2	0.4
都市類型別回収推計量比率	100%	68%	21%	3%	8%
一人あたりの回収量(g)	44	48	43	17	41
合計					
推計量(千トン)	16.2	11.6	2.0	0.8	1.7
都市類型別回収推計量比率	100%	71%	13%	5%	11%
一人あたりの回収量(g)	127	146	74	87	162
都市類型別人口(百万人)	127	79	28	10	11

紙パックの市町村回収は分別収集方式や拠点回収方式で実施されています。

市町村回収の紙パック回収方式には、分別収集方式と拠点回収方式があります。分別収集とは各戸やステーションからの回収で、拠点回収は公民館の回収ボックスなどからの回収です。

紙パックを回収している市区町村を都市類型別にみると、一般市と町村では分別収集が多く、一般市の64.5%、町村の78.4%は「分別収集のみ」となっています。政令指定都市と東京特別区は拠点回収が多く、特に政令指定都市では「拠点回収のみ」が41.2%となっています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

東京都八王子市

取組事例

八王子市は、東京都西部に位置し、2015年に東京都で初めて中核市に指定された人口約58万人の市です。八王子市では、早くから紙パックのリサイクルに着手し、牛乳パックの集団回収団体で構成されている「八王子市紙容器・紙パックリサイクル会」と、資源運搬業者、行政の三者が協力して、1992年9月に拠点回収を開始しました。その後、2010年10月から戸別回収が始まり、現在は戸別回収と集団回収が主体となっています。紙パックのリサイクル量は、2013年度の135トンピークに減少傾向でしたが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響で生活スタイルが変化し、約122トン(2019年度比108%)とやや増加しました。

紙パックリサイクル啓発活動としては、紙パックを含む資源物の分別・出し方について、ごみ・資源物収集カレンダーや市のHPなどに視覚的にわかりやすく掲載している他、学校給食用牛乳パックについては、教育委員会が作成した動画「牛乳パックの開き方」を各小中学校に配信し、子供たちの環境教育や食育にも取り組んでいます。また、事業者が排出する紙類については自己処理が原則ですが、資源化することが難しい事業者を対象に、紙パックを含めた資源化可能な紙類を無料で持ち込める紙資源持ち込み場所(ストックヤード、ストックスペース)を市の施設に設置し、リサイクルの向上を図っています。

今後は、市民の高齢化にも対応しながら、3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動を一層推進してまいります。



紙パックの排出方法「洗って・開いて・乾かして紐で十字にしぼる」
事前登録制の事業系紙資源持ち込み場所(ストックスペース)

学校のリサイクル状況

製紙メーカーのリサイクル状況

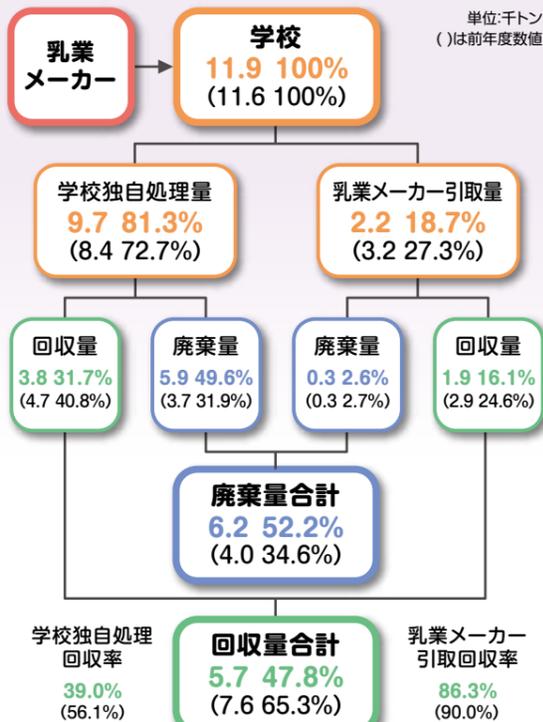


学校給食用牛乳の紙パックのリサイクル率は低下しています。

2020年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は前年度より0.3千トン多い11.9千トンでした。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは5.7千トン、回収率は47.8%で、回収量と回収率はともに前年度を下回っています。

乳業メーカー引取から学校独自処理への移行が進んでいます。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにリサイクルが難しい状況にありましたが、感染症収束後、学校独自処理による回収をいかに増やしていくかが今後の課題と考えられます。

学乳紙パックのマテリアルフロー (推計値)



※学校独自処理とは、乳業メーカーが引き取るのではなく、学校が直接自治体や古紙回収業者などに引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル 神奈川県 横浜市立上星川小学校

取組事例 上星川小学校は横浜市保土ヶ谷区の丘の上の住宅街に位置し、近くには広い森の緑と公園もあり、よい環境です。

容環協は依頼を受けて6年生の1クラスを対象に2020年12月と2021年の11月に「紙パックリサイクルの大切さ」を題材とした環境出前授業を実施しました。いずれの授業でも真剣にメモをとる児童や元気よく手をあげて発表する児童の様子が印象的でした。さらに、「CO₂が減って温暖化が抑えられ、SDGsの目標13(気候変動に具体的な対策を)につながる。」と普段の授業学習と結びつけて理解していることを示す発表もありました。

同校では、全学年が牛乳パックを開いて洗い、乾かしてから次の日に牛乳パックを給食室に持っていき、回収するような活動に取り組んでいます。入学したばかりの1年生の中には牛乳パックを開くことができない児童もいます。その際には、給食のお手伝いをしている6年生に丁寧に教えてもらいながら開き方を覚えます。毎日どの学年もしっかり洗って乾かす習慣が定着しているため、学校全体で牛乳パックのリサイクルに取り組むことができます。

コロナ禍での長期間にわたる不自由な学校生活にもかかわらず、学乳パックのリサイクルが継続されていることを心強く思うとともに、児童の元気な様子に触れ、次の時代を背負う児童への期待とともに、環境教育の一助となることについての我々の使命を再確認いたしました。



スライドの説明を熱心に聞く様子



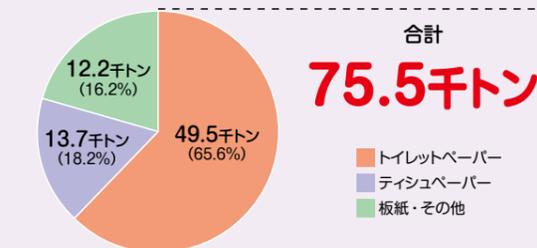
給食後に牛乳パックを洗う様子

回収された紙パックは良質なパルプ繊維として再生されています。

2020年度の国内紙パック回収量84.1千トンと紙パック古紙輸入量をあわせた総受入量は97.2千トンでした。ラミネートポリやその他の不純物を取り除き、75.5千トンのトイレtpーパーやティッシュペーパーなどの家庭紙に再資源化されました。

紙パックは良質なパルプ繊維として、これらの製品の貴重な原料になっています。

リサイクル製品への利用状況



取り組んでいます! リサイクル マスコー製紙株式会社

(本社・工場:静岡県富士宮市)

取組事例 マスコー製紙は、トイレtpーパー・ティッシュペーパー・キッチンペーパー・タオルペーパーを製造販売しております。牛乳パック再生紙が主力ですが、キッチンペーパー他、FSC認証を受けたパルプ製品も製造しております。

家庭紙と呼ばれる我々の業界も、コロナの影響に翻弄されております。昨年春は、トイレtpーパーの不足騒ぎがありましたが、その後は反動により出荷が悪く、特に業務用と呼ばれる企業や施設で使用される商品の出荷は、厳しい状況が続いています。ティッシュペーパーは、マスクが習慣化したせいか出荷が大きく減っております。一方、タオルペーパー・キッチンペーパーは、業務用を始め家庭での使用も増え、好調です。

当社では、ここ数年ポリ包装のティッシュやキッチンペーパーが好調です。しかしながら、ポリの削減が全世界的な課題となるなか、薄う化やバイオマス原料の使用など実質的なポリの削減に取り組み始めたところですが、また、牛乳パックの紙にならない廃プラの処理についても、従来の燃やす(サーマルリサイクル)から、素材としての再利用(マテリアルリサイクル)に取り組もうと製造工程の検討に入っております。

カーボンニュートラル・ポリの削減については、官庁も取り組みを強めています。引き続き、ご指導・応援をよろしくお願いたします。



リモート勉強会を開催しました



代表的な牛乳パック再生品